
クラブ自殺

ロー二黒野

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

クラブ自殺

【Nコード】

N2901W

【作者名】

ロー二黒野

【あらすじ】

光の小説は、彼の友人が武緋村は、これらの自殺の背後にあると、その極悪非道な宗派に関与されるか調査することを決定した10代の被害者になったときに、東邦大学で行われている自殺の神秘的な波のように指示自殺を通じて人間のクリーチャーを戻すために主な目的。一方、優秀な探偵小室セイコー率いる警察部隊が調査に駆動されます。

自殺の波（前書き）

私は死と自殺最低限に関連する何かを言っ決して正直、私は常に生命に関わるものを好む、しかし神の信者は、死について何かを書くことに挑戦することを決めた、との結果がこれです。

私はすべての視聴者に到達するために行われているので、本のよう願う。それは小説家の光になるために常に私の夢でした。

自殺の波

それは、4週間に奇妙な入門

前。第九シリーズの桜千鳥が屋根から飛び降りたとき

大学と庭で確実な死に落ちた。誰も

彼女はそれを行う理由を知って、彼女の両親はそれ自体しないでください

彼の自殺の理由を説明する方法を知っていた。検索

彼女の家と容疑者。すぐ後に見つかった何も

彼女の高校菊池平野が目の前に身を投げた

駅で藤森の列車。再び、によると

家族、その人がする理由がなかった

殺す。後二人の学生が自殺。実際に

興味深いことに、これらすべての学生が学ぶ

桐朋高校。

武緋村は非常にこのニュースに動転している

この被害者のものの後、彼の高校で約自殺、

大学は彼の親友だった出沒自殺の波

平野菊池。警察はの死について彼に質問した

平野、彼は自分で不審なものはないと述べた

人生の最後の時間。唯一のそれは本当ではありませんでしたが、何かがあった

奇妙な。平野は、神秘的に出席するために始めていた

学校のクラブ。そこに、そのクラブの少しあっただけ知られていた

メンバーは非常に奇妙だった。武だけだ

平野はこのクラブに参加することを知っていた。彼自身

武平野は、クラブへの参加を説得しようとしたが、

これは断った。平野の生活はほとんどしていた

クラブは、彼がそこに授業に出席するために殺した、あった

午後と夕方にはまた、彼が家に帰ると述べた
武は、唯一のそれは、彼がするつもりだったことが、本当ではなかった

クラブ。そこに、そのクラブの少しあっただけ知られていたこと
出席した人々は非常に異なっていた。証拠

その桜千鳥は、第九の専門学生です。

シリーズは、大きく変化しました。彼女はよりアグレッシブになり、
彼の犬を殺すようになった。平野もいました
変更、妹とせっかちだ

小さく、ストライキにまで到達しても左I a・Eleいた
と手の研究は、のポイントに非常に積極的だった

両親と一緒に戦って。

このグループは満たしている地元の高校がいくつかでています
大学の一番下に置くが、ほとんど誰もが通過しません。

猛はに何が起こったかを調べるに決定される
彼の親友が突然自殺した。しかし、彼は知っている

これは、これらのリスクの一部を公開しなければならいとされる
こと

リスクは、この神秘的なクラブに入ります。

それはちょうど、クラスの別の普通の日だった。これらにもかかわ
らず

自殺大学は、それが正常だとセッションしていた

最終試験の週に入る。武はウィンドウです

それでも彼の友人の死を考え、彼はそこにいることを実現
捨てられたのパビリオンの一つの屋根の上に12人

大学は、彼らが何かにアップしているように見える、6を有し、
男の子と6少女は、15〜18歳までのように見える

年。すべての12人は手を開催し、増

確実な死への屋根。武は慌てた。

”一体何が起きているのですか？”

学校で普通の日はおつたので、

悪夢。庭上のすべての身体の部分を持っていたと

血液の巨大な水たまり。多くの学生

絶望的な、特に女の子。まだ武

彼の目を信じる。

12人の自殺の後、警察は行動することを決めた。

”これらの自殺が偶然の一致であるということを言っている与えてはいけない。” -

佐川は言った警察

佐川啓介は、最高の研究者の一人です。

日本は、彼がチームを形成するために任命された なぜこれほど多くの学生を見つけるために研究

桐朋高校自殺を犯しています。

”誠、私にすべての生徒の名前のリストを持って来る自殺した。”

”桜千鳥 - 15年、9年生は、の屋上から飛び降り大学と21日に庭で彼の死に落ちた

2008年9月。”

”平野菊池 - 17歳、高校では、彼は目の前に身を投げた9月27日に藤森駅

2008”

”五木健太 - 15年、9年生は、彼自身を刺さ

2008年10月3日。”

”キング三松 - 16歳、高校も刺さ

彼自身は10月2008・Aファミリーの3日に述べて

彼が自殺する前に、彼女は彼の妹を殺そうとした。”

”そして今、最新の場合、12名の学生六男の子と6

女の子は、最初の犠牲者と同じサイト上で自分自身を投げたある演奏とも9日にそれがあつた庭に落ちた

2008年10月。”

小室セイコーは、研究者の最高の友人でありパートナーです。佐川。彼らは過去に一緒に3つのケースを決定しました。

”セイコー、私はあなたが来てよかったよ、私はその多くを必要このケースを解決するのに役立ちます。”

”私がいる場合にその後、すぐに私はあなたの電話を受け取ったとして来た

時間はで起こっている自殺の波です。

東邦大学。”

”はい。私は本当に家族や警察に依頼したい

サイトは既にそれを行った。セイコー、私はあなたが与えたいと思う

警察がここで私たちを与えたこと、これらのレポートを見てください。また

いつもの脳と私行動の人でした。”

”ええとすでに学校を検索する？”

”私は知っているわけではない。”

”その街の警察が間抜けそうになるのでしょうか？それが明確になる

東宝の問題はすべて、その後、大学になって

学生はそこに殺された。”

”彼らが大学で行ったすべてのチェックのみでした

自殺のサイト” - 。誠は言った

”これはセイコーです、彼らは彼が、他に何もしなかった

その学校や家族からのいくつかの学生に尋ねた

犠牲者の友人が、何かを見つけることができませんでした疑う。”

”ええと私の考えではその非常に奇妙なものがあるように感じる

私はよくこれらの報告といくつかを分析したcolor?gio・Mas

物事は、私の注目を集めた。

最初に - 死の場所は同じの最初の犠牲者だった
最新の犠牲者のサイト。

第二 - の動作の奇妙な変化
自殺者の前に日。によると

レポート、すべての犠牲者は非常に攻撃的な一日でした
自殺の前に。

第三に - 報告書によると、2つの犠牲者
あった、同じように10月3日に死亡した
ボーイフレンドと同じ部屋に出席した。

とルーム - 私はそれと呼ばれる注意を気づいたもの：
自殺は7日ごとに行われている。”

”え？セイコー深刻な？”

”はい。第一自殺が21日に発生したことに注意してください
九月、27月の二日目、3番目と4番目の
10月3日以降、10月9日。計算と7日間の範囲があることがわ
かります。しかし持っている

必ず我々は10月の15日まで待つ必要があります。”

”何ですか？あなたは、自殺があるかどうか我々が見る必要があるこ
とを言っています

15日間？”

”その通り誠。私は約確信しているため
理論。”

”我々は、より多くの人々が死んで防ぐ必要があります。”誠は言
った

”我々は、誠は誰がわかっていないことを行うことはできません
我々是我々が保存すると知ってたら自殺ではなく、として

知っている、我々はこの自殺かどうかを確認することを期待してく
ださい

手がかりを得た。”

”彼は右の誠です。しかし、少なくとも我々は確信しています

これらの自殺が偶然ではない、本当に何かをしています
その学校で奇妙な” - 。 佐川は言った

10月12日

武はこのクラブへのアクセス権を持つ方法を知りたいと思ったが、
唯一の

学校で誰もあつたこのクラブを知っていないしていない
あつたかのように。しかし、それは事実上不可能だった
あなたも、名前がわからないのクラブを見つける。

武は、彼が見ていた何かを覚えしようとしていた、そして彼が来た
念頭に置いて、彼が見ていた何か。彼の前日

死、平野は実際に、神秘的で学生だった

かなり奇妙な男、彼は赤い髪とピアスを持っていた
顔。と男はに明らかに服用していた

そのようなクラブ。それがだから今では、より簡単になっていた
赤い髪とピアスを持っているすべての学生。彼

すぐに最も人気のある生徒の一人に尋ねた

そのような学生が呼び出されたことを彼に言われた大学、咀、

乾と相良は非常に奇妙な男だった。武は知っていた

彼は自殺をする場合には、彼の友人が作ったものを発見したい場合
この神秘的なクラブに入る。

” こんにちは、あなたは相良乾れている？”

” 私はそうです、あなたは何をしたいですか？”

” 私はあなたのクラブに参加したい。”

相良は椅子から立ち上がり、武の襟をつかんで
シャツ。

” 何をクラブについて知っていますか？”

” 私は何も知らない。”

” 嘘！誰がクラブについてあなたに言った？”

”誰もいない。”

”私と一緒に来て。”

武相良は、大学の下部につながった。があった
地上でのセラーのドアの種、すなわち、
秘密の通路。

”あなたはクラブに入るためにしたくないですか？”

”Y - はい。”

相良はドアを開け、広い階段があった見た。

”その後、私たちを失望させる。”

どちらも、巨大な階段、武修理をダウンした
壁を持っていた人物、というイメージ
街を破壊する悪魔。

サイト内にある他の多くの学生がいた、と王位を持っていた
ここで、一人座つてがあった。

相良はこの男に接近し、畏敬の念を行いました。

”この子は、クラブに提供したいと考えています。”

”皮膚から彼を取得する。”

相良はナイフを取り、作品を切り開くために、それを用い
アーム武の皮膚。

”ここ。” - 相良毅然す皮膚は述べています。

”パーフェクト。武右？自殺のクラブへようこそ。”

謎の男が王位武に近づいた。

”あなたは彼の名前で犠牲にしていますか？”

”D - それ？”

”はい、偉大な月 - 石太。”

”月？什太？モンスターの死体。はい、私は喜んで。”

武はほぼ小便した。彼は行くと思った

シンク、しかし彼の友人の死の考えていた。彼がしたかった
月 - 市台の代わりに生け贄に捧げる。

”タトゥーを。”彼は謎の男は言った

武は彼がこのタトゥーを見ていたことを思い出しました
腕と契約平野インチ

”今は上から、もはや残すことができることを知っている
自殺のクラブ、そしてあなたがルールに従わない場合は処罰されま
す。

死刑で。”

彼の友人が自殺したので、武は知っていたが、彼がしたかった
生徒が無意味なものに従ってなぜ知っている。彼

私は堅い方法を発見するとは想像することはありません。
クラブの神秘的なリーダーは、見知らぬ人を引っ張った
アーティファクト、この時間は武相良に近づいた。

”今、あなたはこのクラブに入る人、なぜそれらを発見する
離れることはありません。”

神秘的なデバイスが開かれ、何が目のように見えたされた
輝き始めた。

この時点で、武は生きるために彼らの理由を失っていた。
セイコー探偵は約何かを見つけようと思います

自殺。

”ええと確かに偶然、持っている人ではない
そのすべての背後に操作する？それはの作品です
何か超自然的？それは神、神は非常に殺すとしていませんされてい
ません

少ない人は、自分自身を殺している。しかし確かにそこに
自殺は、単にしている人々が自分を失っていることです。
生きることの理由？私は分析する必要がある。”

最初の死 - 桜千鳥

”私はすべての死亡の報告書を見ていた。”

桜千鳥が - それは前に非常に奇妙な一日でした

自殺。彼女はとても積極的だったし、彼の病気の祖母を攻撃
犬を殺した。

平野菊池 - も多くの変更は、拍動開始しました

忍耐の欠如と数回のための妹

両親と一緒に説明したように、彼の成績は劇的に減少していた。

五木健太 - 自分を刺したが、またされていた

彼のガールフレンドを除くすべての人と積極的。

美松王は - また彼自身を刺した。時代

五木健太のガールフレンド。家族は彼女がしようとしたと述べた
彼が刺された前に彼の妹を殺す。

最後に、12人六男の子と6つの女の子がに跳ね上がった

死。最初の犠牲者と同じ場所。

”だから私たちは16の犠牲者、8つの男の子と8の合計を持っている”

女の子。刺さカップル、無を除く

犠牲者は、親族または親しい友人だった

他人。私の見解では唯一のは知っていた。しかし、私は必要
しかし、いくつかの類似点を見つける。誠は私を送る
新しいレポート。”

”右。”

”より多くの手がかり、のようなものがなければなら
と思われる自殺は非常に一般的なように見える、としてい
ことは少なく偶然、だ...”

”ここでレポートセイコーさんです。”

セイコーは、彼が見たものに感銘を受けました。

10月13日

セイコーは、すべての研究チームが集まった。

”紳士は、私は新しい発見があつたと私はほとんどです
必ず私が正しいと思う。”

”と発見が何であるか？” - 佐川は言った

”私はそれが自殺の背後に何かまたは誰かを持っていると思う。
”WHAT?”

すべての調査チームは、啓示によって啞然としたセイコー。

”C-ならびにセイコーとして、私達に告げる。”

”私に説明してみましよう。昨晚私は見て、再度探してレポートとさらにいくつかのことを気づいた。”

すべての類似点を聞かせ、8つの少年は、16の犠牲者があつたと8人の女の子は、その前に一日中積極的であつた

すべての死亡、とは、暴力的な何かを行っている。そして、それはしていた

それぞれの自殺の前にわずか数日。”

”どこでセイコーを得るか？”

”それは彼らがまたは何かによって制御されていたことは明らかである

誰か、誰の変化に時間の動作

別の。犠牲者の親族によると、の変化

彼らの行動は、一晩に変更。”

”しかし、これはセイコーので説得力はない。”

”落ち着い。ここではより多くの証拠です。によると

報告書、親族は被害者の一晩を述べて

自宅を離れ、どこかに行かなければ語った。”

”だから、と言っている・・・”

”正確・彼らはは同じ場所に行きました。”

”あなたは彼らが夜に外出するとき、彼らはに行つたと言っていますか

同じ場所、会議、すなわち。”

”その通り。この証拠はいくらですが、私が表示したいの遺体を検討してきたものより。審査官

被害者は、彼らは体の間で共通するものを見つけた。”

”何？”

”すべての犠牲者で、あつた小さな入れ墨を持っていた

文字”M”。”

”レターM？あなたは何を意味する？”

”私は知らない。私はこれらすべての自殺があったと信じている
邪悪な儀式に参加。と任意の儀式のように持っています

リーダーは、私はこれがシーンの背後にあると信じて
自殺。”

”しかし、それは事実上不可能セイコーです。”

”ありません。私はいくつかのマインドコントロールの背後がある
と信じている

それ。あなたは佐川は、何かに参加すると思うこと
あなた自身の人生を失うことを知っている。”

”もちろん、人々は狂気でありではない。”

”真の、しかし人はそのように数ヶ月を費やす必要があります
事、ここでのケースは、被害者がその動作を変更しました

何かまたは誰かが操作するかのように突然、それは。

”これはクレイジーセイコーです。”

”それはちょうど疑いです。しかし、私は誰と信じている
料理は、物の新機能です。すべてのものを見てみましょう。”

”彼らは一緒にどこで取得するしかし、あなたは知っていますか？

”

”これは東宝が学校にいることは明らかである、と誰かの後ろにあ
る場合

すべてこれはおそらく大学の一つです。私は信じる

メンバーの何百、すべての学生にもあります

カレッジ。佐川は、私はあなたが高校でそこに行きたいと
学生にも演技されて発見、調査

奇妙な、私はまだその日は10月15日になると信じて
他の自殺。”

佐川は、大学に行った。

”こんにちは、あなたは探偵圭介佐川急便になります。”

”そして、あなたは監督一樹です。非常に満足して。私はここよ学校を調査、あなたが私を見ることができるといことですこの場所の隅々？”

ディレクター一樹は、佐川急便がいることを示すために大学に行った

彼は渡された学生たちは気づいた。一樹は、すべてを示した佐川のための大学。

”すでにあなたにすべてのものが示されている。”

”私は大学の底を見てみたい。”

ディレクター一樹は少しイライラした。しかし、それは佐川を取った大学の底へ。

それは暗い所が、注意を喚起するために何もなかった。

”和樹さん、ありがとう。”

佐川は左。この時点でソフトな声と

女性は和樹の耳に響き渡った。

”警察は和樹を疑っている。”

”気にしないで、私は遅かれ？？早かれ警察が到着したことを知っていた

ここで、学生がここで自殺したが、この後にのみ、すぐに多くの悩みがあるでしょう。”

10月14日

武は、非常に奇妙な行動していた最近。と積極的に始め

前に平野に非常に似て、家族の行動彼の自殺。

要みどりは変化を気づいていた唯一のものである

武奇妙な行動。彼女は彼の友人です。

子供の頃から、彼との恋に密かにあります。

武はの範囲で、学校としている

アーム、このバンドはなしです腕のあなたの部分をカバーしています

引き裂かれた皮膚、。多くの努力みどりとに達する。

” 緋村くん。”

” カナちゃん。” - 武というダークな表情で言った
要が怖い

” 何があなた緋村ちゃんに起こったか？あなたもね
一昨日から異なる。”

” カナちゃん、私はあなたに何かを教えてあげましょう。学校を休む。ある

非常に危険です、多くの学生が既に汚染されていると
多くは、明日死んでしまう、もはや学校に、変更されます
そしてあなたは死ぬでしょう。”

” これは緋村ちゃん、馬鹿げている。”

” それはばかげてではない。” 武は叫んだ

” 私は、平野の死は自殺ではなかった理由を知ったという
殺人、彼が制御されていました。大学における深いですに不気味儀式人間の犠牲がある

月 - 市台として知られている悪魔の名前。 A

謎の男は心を制御するデバイスを使用して、
彼の犠牲者の。それでもこの男誰であるか見つけることではない
それは学校から誰かことは明らかである。彼の目標は、

2000年に投獄されたこの悪魔を、持ち帰る
年前、その証拠は手紙と犠牲のマークです。

儀式のすべてのメンバーの体に置く”M”、私

私はタグ付けされてきた、私はおそらくすぐに死ぬだろう。”
要が泣きに落ちた

” 次に、p - どうして行くの？”

のみを持つので、” カナちゃんは、よく聞く、私は、あなたにこれを言った

あなたはそれらの精神的効果が機能しない制御します。カナちゃん

私はあなたが私に行くと警察のすべてをお伝えしたいと思います
大学の底部を洗掘するためにそれらを教え、言う。これを行う

私はだからかなちゃん、私は何もできない

それらを制御、私はすべてこれを発見したので、私

よく調査、私は他のですが何もできない

可能性があります。”

”いいえ、私はあなたが学校に進むことはできません。”

”私は行ってみよう。あなたが私を試してみる場合、私は彼らのコントロール下です

私は1a.？がに手遅れ痛い保つことができる

私は今の生活を保存し、警察に何を言う、より多くの回避
自殺と警察はその気違いを得るか。”

武は、別の言葉もなく離れて点灯し、向かって行く
大学へ。要が泣いて泣いているに落ちる・・・

”緋村ちゃん、緋村ちゃん・・・”

”武くんは、ハロー自殺のクラブに戻って歓迎する。”

私は名前で死ぬとき”、私に教師に紹介
それ？

”落ち着いて、あなたは自殺の最後の波で死んでしまう
が存在します。”

”最後の波？してください教えてください、どれだけの人々
月 - 泰に代わって犠牲に？”

”100。”

”100？”

”正確・16人は、まだ月 - 石台县に返却する必要があります
行方不明84人、合計100の、50人と50

女性たち。”

マインドコントロールの思想の影響について同じ武

これを停止するように、彼は神に祈った

外このような状況のとより多くの死を防ぐ。

” 彼はその学校の佐川で奇妙な何かを見つけましたか？ ”

” 学校ではませんが、私はディレクターに尋ねた時
底を確認し、それは少しは不満だった、それは非常にあった
容疑者とファンドは非常に暗かったが、何もすること
注意を促します。 ”

” それで、あなたは監督を疑います。私は誰を知っていた
儀式を率いて、誰かの内側にはあった。 ”

” 私は、セイコーを知っているが、そのディレクター一樹を知らない
こと

何か。 ”

” あなたはそれが良い佐川です、我々はどのくらいあるかわからな
い

疑うと我々は疑わしいように場所を持っている。どのような
我々は今、右に見える必要があります。 ”

10月15日

午後

” 何が、東宝34の高校生は、目の前で自分自身を投げた
市田の地下鉄の駅。理論はセイコーだったので、
右に。 ”

” セイコーさん、セイコーさん。 ”

” 誠は何でしたか？ ”

” 東宝34人は、地下鉄の前で身を投げた。 ”

” それは素晴らしいことです。 ”

” 何？ ”

” 今の手がかりは、この殺人者をキャッチすることができます。 ”

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2901w/>

クラブ自殺

2011年10月9日15時54分発行